郡山市立富田中学校
学校だより
No.18

手をたずさえて

“富中PRIDE”～自信と誇り～

自ら学ぶ生徒
正しく行動する生徒
健康でたくましい生徒

令和元年８月２６日（月）発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長　熊 坂　　洋

日本人が共有すべき夏休みの宿題、そして未来をより良きものにするために…

昭和２０年４月１２日、郡山市での第二次世界大戦の被害は起こった。その日は快晴で無風、春らしい気候だった。私の祖父は当時１４歳、郡山市から１２キロもの道のりを汽車に乗って、三春町にある田村旧制中学校に通っていた。当然だが、今日Ｂ２９爆撃機が来襲してくることなど知らない。いつもどおり学校に行って、いつもどおり授業を受けていた。しかし、その授業中、突然空襲警報が鳴り、先生の指示に従って急いで校舎の近くにある山に掘った防空壕に入った。すると太平洋側の上空からキラキラ光る飛行機の編隊がやってきた。これがＢ２９だ。Ｂ２９が祖父達の上空を通過した後、５分もたたないうちにドドーンという地響きが聞こえてきた。この地響きによって校舎がガタガタと揺れ、ガラスを叩くような音がしたらしい。Ｂ２９の爆撃の編隊は銀色のピカピカした鳥が飛ぶように見えたという。

中でも一番被害を受けたのは日東紡富久山工場、保土ヶ谷化学工場だ。１１時１５分から１時間に渡り二つの工場を襲撃、爆弾を投下し、全体で死者５００名を超え、負傷者は１０００名。その他、郡山駅前には爆弾だけでなく、※焼夷弾（しょういだん）も落とした。そのせいで駅前は焼け野原となった。その後、空襲警報が解除になり、１３時過ぎ学校の先生より「駅が被害を受け、汽車が不通になったため、歩いて気を付けて帰れ。」と指示が出た。祖父達は１２キロもの道のりを上級生数名と歩いて帰った。その途中に日東紡富久山工場があり、生々しい悲惨な情景を目の当たりにした。爆風で飛ばされた死体がごろごろと散らばっていたという。また、これらの工場では学徒動員で中学生や高校生が働いてた。この４月１２日の郡山空襲では、保土ケ谷化学工場だけでも学生２６名の尊い命が奪われた。祖父は痛ましい光景だったと言っていた。

爆撃を受ける日東紡富久山工場

※焼夷弾（しょういだん）：目標を物理的に破壊するのではなく、攻撃対象を焼き払うために使用された兵器

十数年前のものですが、ある中学生が戦争体験を祖父に聞き取った内容をまとめた作文です。

第二次世界大戦（太平洋戦争）の終戦から今年で７４年が経過しました。戦争を二度と起こさないためには、大切な人の命を突然、理不尽に奪われた悲しみを経験した人々が次の世代に伝え、共有していくことが重要であり、今を生きる我々の責務だと思います。伝えることにより、単に「何人が犠牲になった」という数字ではなく、一人一人の大切な「命」として実感することができ、同じような不条理な死を二度と出すまいと思えるようになる。平和な社会はそうやってつくられる。しかしながら、戦後７４年がたち、戦争の惨状を語り伝える“語り部”の方々の高齢化が深刻で、これまで必死に戦争を語り続けてきた人達が次々と亡くなっているという現状があります。夏休み中には、広島原爆投下の８月６日、長崎原爆投下の８月９日、そして終戦記念日の８月１５日と戦争に関係の深い日が、幾日もあります。終戦から７４年経った今、「死の恐怖」を感じることなく、日常生活を送ることができ、私たちは安全な中で「生きている」ことが当たり前になっています。そのため、私達は、「生きる」とはどういうことなのか、意識することのないまま、毎日を過ごしているように思います。この郡山市でも多くの犠牲者を出した「戦争」について、そして「平和」について、じっくり向き合って考えること、これが日本人が共有しなければならない“夏休みの宿題”であると思います。

この夏、郡山市長崎派遣事業に参加した２年丸野和士君の体験報告を複祭の中で行います。戦争の若き語り部としての報告を期待しています。

そして、戦争によって未来を奪われた多くの若者がいたという過去を踏まえ、二学期がスタートするこの節目となる今日は、「未来をより良きものにするためには…」という話をします。

未来を変えるにはどうしたらいいか。未来をより良きものにするためにはどうしたらいいか。

答えを先に言ってしまうと、未来をより良きものにするためには、「今という瞬間を大切に精一杯生きる」ということです。学校生活は『点』ではなくて『線』なのです。この『線』は実は『今という瞬間の点』がつながって『線』になっているのです。

「今やるべきことに全力を尽くす」…今を大切にして今できることに自分の持てる力を注ぐということ…私達の「今」はこれまでの「過去」の積み重ねであり、私達の「未来」は「今」の一瞬、一瞬の積み重ねの先にあるものです。過去は過ぎ去ってしまった時間ですから今更変えることはできません。でも、未来が今の積み重ねの上にあるとすれば…今を一生懸命生きること、今やるべきことに全力を尽くすことで未来は変えることができる。だから未来を変えるのなら今なのです。今、頑張らずに「そのうち」とか「後で」とか言い訳をしていい加減に過ごしていれば、そのいい加減さの延長線にある未来もいい加減なものになってしまいます。

「未来とは、今である。」

これは、アメリカのある文化人類学者の名言です。この短い言葉の中に未来の真実が隠されています。未来とは今の行動の積み重ねで決定されるのです。未来をジグソーパズルにたとえると、毎日の小さな積み重ねはパズルのピースのようなものです。点と点を繋ぐように、「今一番心を傾けて努力しなければならないことは何か」をはっきりとさせ、日々のジグソーパズルを積み重ねていきましょう。１年生は中学生らしさを本物にすること、２年生は学校の要としての働きを果たすこと、３年生は進路実現に向けて準備体制をより強いものにしていくこと、それぞれが「成長する学期」となるよう努力するとともに、正義を愛し、思いやりに溢れた善意ある言葉や行為のとれる生徒として『富中ＰＲＩＤＥ』の実現をめざしていきましょう。

～第二学期始業式校長式辞より～

どんな2学期にしていくのか…

始業式では、各学年代表生徒による「２学期の抱負」の発表が行われました。１年赤沼惠悟君はあるお笑いタレントがついた嘘から騒動となった出来事から、「自分を守るための嘘は誰も幸せにしない」という考えを持ち、何事にも正直で素直な気持ちで生活していきたいと述べました。２年小野琥珀君は、面倒なことから逃げようとする自分のあまえた考えを捨て気を引き締めて生活したいと発表しました。３年宍戸敦哉君は、不得意教科の克服に重点を置いた夏休みの学習とその成果を振り返り、新しい入試制度を視野に入れ、学年全体で互いに切磋琢磨できる雰囲気をつくっていきたいと抱負を述べました。原稿を全く見ない素晴らしい発表でした。

２学期のスタートにあたり、それぞれが思い描いている目標や抱負をより具体的なかたちで行動に移していくことが大切です。

代表生徒の堂々とした発表

発表を真剣に聞く生徒達

夏休みの練習成果を思う存分発揮して！

８月23日（金）にはこれから大会・コンクール等がある特設駅伝部、英語弁論、合唱部の壮行会が行われました。市の駅伝競技大会は、８月29日（木）開成山公園で開催されます。昨年度女子駅伝部は優勝を果たし、新たな歴史をつくりました。今年度も１本の襷を部員全員で最後まであきらめることなく繋いでほしいと思います。市の英語弁論大会は、８月30日（金）に中央公民館で行われます。暗唱の部には３年前田花音さん、創作の部には３年箭内佑都君が参加します。夏休み中にも登校し練習を重ねてきた２名です。本番でも自分自身をおもっきり表現してほしいと思います。

全校応援

お礼の言葉（駅伝：星海憧君）

合唱部は、８月31日（土）に福島市のとうほうみんなの文化センターで開催される福島県合唱コンクールに参加します。さらに磨き上げた歌声を期待します。壮行会では、２名の生徒が素晴らしい英語弁論を、合唱部は心のこもった合唱曲２曲を全校生に披露し、大きな拍手をもらいました。本番も頑張ってください！